

新年あけまして おめでとうござい います

葛巻町長 鈴木重男



あけましておめでとうございます。本年が皆さまにとりまして、多くの希望が叶えられ、笑顔満ちあふれる実り多き年でありますよう、ご祈念申し上げます。

また、平素は、町政運営にあたりまして、町民の皆さまからのご理解と温かいご支援ご協力をいただきありがとうございますこと、心から深く感謝申し上げます。

コロナ禍への対応

さて、昨年を振り返りますと、年明け早々から数か

月前まで新型コロナウイルス感染症が急激に拡大し、国内はもとより全世界で猛威を振るったところでありますが、幸いにも県内の感染者数は比較的低い水準で推移したところであります。

本町においては、昨年5月にはワクチンの集団接種を開始し、8月末には接種を希望する町民のほとんどが接種を終えることができ、県内で最も早い対応となつたことは、町民の皆さまのご理解とご協力のたまものであり、深く感謝するものであります。

また、今月からは3回目のワクチン接種が、医療従事者から順次開始してまいりますので、町民の皆さまにおかれましては、引き続き、ご協力をお願いするものであります。

一方で、飲食店や観光業をはじめとする地域経済は、

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けていたことから、プレミアム付き商品券「葛巻町エンジョイチケット」を販売し、その回復に努めてきたほか、一昨年からの取り組みでいる新たな町の特産品「くずまき鍋」は、3つの飲食店が新たに加わり、それぞれ個性ある6種類の味が堪能できるようにになりました。

まさに、コロナ禍で冷え込む地域経済を温める起爆剤となることを期待するほか、さらに新たな飲食店の参加と、町の名物として、しっかりと定着していくことを願うところであります。

地方創生への取り組み

こうした中において、町ではコロナ禍における対策、あるいは新たな生活様式への対応、地方創生の取り組みによる関係人口・交流人口の拡大に向けた施策を、着実に進めてきております。

産業振興におきましては、酪農ヘルパー住宅、森林雇用促進住宅の整備により、

るところであります。

また、平成30年度から続く「北岩手・北三陸横断道路整備促進期成同盟会」の取り組みは、昨年6月に岩手県が策定した「岩手県新広域道路交通計画」において、高規格道路整備が必要とされる「構想路線」に位置付けられるなど一歩前進し、今後、さらに活動を活性化させてまいりたいと考えております。

新たな施策の進展

令和4年は、現在進めております、林業の町の広告塔となる「木製上屋付き大橋」が春に、複合機能を有する「役場新庁舎」が夏に、それぞれ完成する見通しであり、町中心部における新たな拠点として、関係人口・交流人口の拡大はもとより、中心市街地をはじめとした地域経済の活性化に大きく繋がることを期待するところであります。

また、町の基幹産業である酪農においては、乳牛導入から130年と記念すべ

き年であり、脈々と受け継がれてきた歴史を、この先100年を見据えた「新葛巻型酪農構想」でさらに進展させていく機会と考えております。

さらに、他に先駆け平成11年から取り組んでいる「脱炭素社会」に向けた施策は、現在国を挙げての取り組みに進展しています。環境問題に対する機運が世界的に高まる中、「全国風サミット」を本町で開催する予定としており、これまで先導役として担ってきた取り組みを発信していくことで「ミルクとワインとグリーンエネルギーのまち」としての認知度を、さらに高めてまいりたいと思っております。

このほかにも、コロナ禍により社会情勢が大きく変化してきており、中でもさまざまな分野におけるデジタル化導入の流れが急激に進んでおります。これまで町が培ってきた地域情報化の取り組みをさらに加速させ、住民サービスにおける利便性の向上はもとより、

効率的でより効果的な行政運営を心掛けてまいります。

山村のモデルを目指して

結びに、一昨年から延期しておりました町制施行周年記念事業が、感染症対策を講じ、関係各位ご参集のもと無事開催できましたこと、改めまして御礼申し上げます。町民の皆さまのご理解とご協力に感謝申し上げます次第であります。

私は、これまでも町政の課題解決において「どんな大きな問題も必ず解決の糸口はある」と信じ、「夢しか実現するものはない」という信条のもとに取り組み、このコロナ禍においてこそ積極果敢に取り組み、「山村のモデル」となるまちづくりを着実に進めてまいりたいと思っております。

年頭に当たりまして、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、本年もなお一層のご活躍をご祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

